

あじさい

「パラソルロマン」「エンジェルリング」

「プリンセスリング」の栽培技術



栃木県農業試験場

あじさい「パラソルロマン」「エンジェルリング」「プリンセスリング」の栽培技術 目 次

はじめに

I 品種の概要

【パラソルロマン】

- 1 育成経過
- 2 形態的特性
 - (1) 草姿
 - (2) 花序
 - (3) 装飾花

【エンジェルリング、プリンセスリング】

- 1 育成経過
- 2 形態的特性
 - (1) 草姿
 - (2) 花序
 - (3) 装飾花

II 栽培特性及び栽培のポイント

- 1 花芽分化時期と適切な摘心時期
- 2 休眠打破に必要な低温期間
- 3 草姿コントロール
- 4 安定した花色発色のための施肥量

III 栽培技術指針

- 1 親株管理
- 2 挿し木作業
- 3 育苗管理
- 4 休眠期の管理
- 5 定植から開花までの管理
- 6 出荷
- 7 病虫害防除

はじめに

栃木県では鉢物花き生産者の経営の柱として、シクラメンの生産が盛んであり、全国有数の産地となっている。多くの生産者は生産施設を効率的に活用するため、様々な品目をシクラメンと組み合わせており、その一つにあじさいがある。

近年、母の日のギフトとしてあじさいの鉢物の需要が年々高まっており、市場規模が拡大している。栃木県の令和元年産のあじさい販売額は1億4千万円とシクラメンに次ぐ鉢物の主力品目となっている。

こうした背景から、当試験場では、商品性の高い県オリジナル品種の開発に取り組んできた。2015年には、既存品種にはなかった八重咲き性と複色の特性をもつ「きらきら星」を品種登録し、同時に栃木県鉢物研究会ではきらきら星生産部会が立ち上げられ、生産が行われている。

八重咲きのあじさいは希少性が高く、市場評価も高いことから、当試験場では「きらきら星」に次ぐ品種として、平成30年に八重咲き性の手まり咲きあじさいである「パラソルロマン」、令和元年に八重咲き性、複色でコンパクトなサイズの「エンジェルリング」「プリンセスリング」を品種登録出願した。「パラソルロマン」は令和3年のジャパンフラワーセレクション鉢物部門で、優秀賞とモーストジョイ特別賞を同時受賞し、「エンジェルリング」「プリンセスリング」も入賞するなど、各品種とも高い評価を得ている。

これらの品種は、それぞれに既存品種とは異なる特有の性質を有するため、発色や草姿を揃え、規格品の高品質安定生産を図るため、栽培技術確立試験の結果を踏まえ、本栽培マニュアルを取りまとめた。



I 品種の概要

【パラソルロマン】

1 育成経過

2011年に「八重咲き・ガクアジサイ型・単色」の特徴をもつ「隅田の花火」由来の育成系統を母親、「フラウヨシコ」を父親として交配して得られた実生株を、さらに自殖交配した実生株の中から2015年に選抜した。有望系統「あじさい栃木4号」と位置づけ、挿し木増殖を行った。2018年に特性調査を実施した結果、装飾花のがく片数、装飾花の大きさ及び覆輪部の発色が安定し、開花形質が優れたことから、同年に品種登録出願した。

2 形態的特性

(1) 草姿

植物体は開帳性で樹高は40.0cm、葉の形状は楕円形である(表1)。

(2) 花序

花序の形はアジサイ(手まり)型である(表2)。

(3) 装飾花

花形が八重咲きで、装飾花の直径が40mm程度、装飾花数は175輪程度と非常に多い(表3)。装飾花は複色で、複色のタイプは「きらきら星」と同じ覆輪である。がく片中央部(主色)の色は紫ピンク(RHSカラーチャート65B)、外側(複色)の色はピンク白(RHSカラーチャート69D)である。がく片の形は楕円形で、がく片の縁の切れ込みが中程度の特徴を有する。開花1か月後以降、花色が緑色に変化する移行性がある。



写真1 「パラソルロマン」の草姿



写真2 「パラソルロマン」の花序

表1 草姿の特性

	樹形	樹高(cm)	葉の形状	葉身長 ¹ (cm)	葉身幅 ¹ (cm)
パラソルロマン	開帳性	40.0	楕円形	11.4	7.9
きらきら星(対照)	開帳性	39.5	卵形	11.0	8.5

注1. 葉身長および葉身幅は花序の下3節目の葉を測定。

表2 花序の特性

	花序の花形	花序径(cm)	両性花の明確	両性花の色
パラソルロマン	アジサイ(手まり)型	20.0×20.4	不明瞭	淡紫
きらきら星(対照)	ガクアジサイ型	18.0×20.0	不明瞭	淡紫

表3 装飾花の特性

	花形	直径 (mm)	装飾花数 (輪)	がく片数 (枚)	単色・複 色の別	装飾花の色 ¹		移行性	がく片 の形	がく片の縁 の切れ込み
						主色	複色			
パラソルロマン	八重咲	38×40	175.0	13.5	複色	65B	69D	有	楕円形	有
きらきら星(対照)	八重咲	57×64	8.0	13.5	複色	66C	69D	有	かぶ形	有

注1. 装飾花の色はRHSカラーチャートにて表示。

【エンジェルリング、プリンセスリング】

1 育成経過

2012年に「きらきら星」を母親、「普通(一重)咲き・アジサイ型・単色」の系統を父親として交配して得られた実生株を、さらに自殖交配した実生株の中から2016年に選抜した。有望系統「あじさい栃木7号」「あじさい栃木8号」と位置づけ、挿し木増殖を行った。2019年に特性調査を実施した結果、それぞれについて装飾花のがく片数、装飾花の大きさおよび覆輪部の発色が安定し、開花形質が優れたことから、同年に品種登録を出願した。

2 形態的特性

(1) 草姿

「エンジェルリング」は開帳性で樹高は24.2cm、葉の形状は楕円形である(表4)。「プリンセスリング」は開帳性で樹高は29.5cm、葉の形状は楕円形である(表4)。

(2) 花序

「エンジェルリング」の花序の形は、ガクアジサイ型である(表5)。両性花の明確は、雄ずいが、がく片化した八重咲きのため、“不明瞭”であり、観賞時に花粉の脱落が発生しないメリットがある。両性花の色は“淡紫”である。「プリンセスリング」の花序につ

いても同様の特性を示す（表5）。

（3）装飾花

エンジェルリングは、花形が八重咲きで、装飾花の直径は50mm程度、装飾花数は10輪である。装飾花は複色で、複色のタイプは「きらきら星」と同じ覆輪である。がく片中央部（主色）の色は鮮紫ピンク（RHSカラーチャート66A）、外側（複色）の色はピンク白（RHSカラーチャート69D）である。がく片の形は楕円形で、がく片の縁の切れ込みが中程度の特徴を有する。開花1か月後以降、花色が緑色に変化する移行性がある（表6）。

プリンセスリングは、花形が八重咲きで、装飾花の直径は60mm程度、装飾花数は9輪程度である（表6）。装飾花は複色で、複色のタイプは「きらきら星」と同じ覆輪である。がく片中央部（主色）の色は紫ピンク（RHSカラーチャート67B）、外側（複色）の色はピンク白（RHSカラーチャート69D）である。がく片の形はかぶ型で、がく片の縁の切れ込みが中程度の特徴を有する。開花1か月後以降、花色が緑色に変化する移行性がある（表6）。



写真3 「エンジェルリング」の草姿



写真4 「エンジェルリング」の花序



写真5 「プリンセスリング」の草姿



写真6 「プリンセスリング」の花序

表4 草姿の特性

	樹形	樹高(cm)	葉の形状	葉身長 ¹⁾ (cm)	葉身幅 ¹⁾ (cm)
エンジェルリング	開帳性	24.2	楕円形	8.6	5.9
プリンセスリング	開帳性	29.5	楕円形	9.8	7.3
きらきら星(対照)	開帳性	39.5	卵形	11.0	8.0

注1. 葉身長および葉身幅は花序の下3節目の葉を測定。

表5 花序の特性

	花序の花形	花序径(cm)	両性花の明確	両性花の色
エンジェルリング	ガクアジサイ型	13.4×14.0	不明瞭	淡紫
プリンセスリング	ガクアジサイ型	15.5×17.0	不明瞭	淡紫
きらきら星(対照)	ガクアジサイ型	18.0×20.0	不明瞭	淡紫

表6 装飾花の特性

	花形	直径 (mm)	装飾花数 (輪)	がく片数 (枚)	単色・複 色の別	装飾花の色 ¹⁾		移行性	がく片 の形	がく片の縁 の切れ込み
						主色	複色			
エンジェルリング	八重咲	50×52	10.0	11.4	複色	66A	69D	有	楕円形	有
プリンセスリング	八重咲	60×63	9.5	9.5	複色	67B	69D	有	かぶ形	有
きらきら星(対照)	八重咲	57×64	8.0	13.5	複色	66C	69D	有	かぶ形	有

注1. 装飾花の色はRHSカラーチャートにて表示。

II 栽培特性及び栽培のポイント

1 花芽分化時期と適切な摘心時期

一般にあじさいの花芽分化適温は18℃以下であり、充実した花芽形成のためには、摘心を8月中旬までに行うことが慣行技術である。しかし、県育成品種「きらきら星」は18℃以上でも花芽分化し、9月上旬～中旬には二次花房分化期(ステージ5)に達する(図1)。

「きらきら星」と親が同系統の「パラソルロマン」についても7月に摘心をし、9月上旬から2週間ごとに花芽形態形成を観察した結果、9月上旬から花芽分化が始まり、10月下旬には雄ずい・雌ずい形成期(ステージ7)に達したことから、「きらきら星」同様、花芽分化が早い傾向がみられた。また、エンジェルリング、プリンセスリングについても「きらきら星」由来系統であることから、3品種については、**8月中旬以前の摘心は、早期の花芽分化を促し、年内不時出蕾につながるため、注意が必要**である(写真7)。

ただし、摘心が遅くなると開花が遅れる傾向があることから、母の日出荷には、摘心を**パラソルロマンでは8月30日頃、エンジェルリングは8月20～30日頃、プリンセスリング8月20日頃**に行う必要がある(表7、8、9、写真8)。



図1 アジサイの花芽分化ステージ (「Hydranxia Production」 Bailey, D. A, (1989))



写真7 年内に開花した株

表7 最終摘心日と開花形質の関係 (パラソルロマン)

摘心日	平均開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
8/10	4/1 a ²	62	14.2	26.0	33.5
8/20	4/8 ab	69	13.8	25.4	35.4
8/30	4/12 b	73	15.3	28.1	34.8
9/10	4/17 b	78	16.0	27.0	35.0
有意性 ¹	*	-	ns	ns	ns

注1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は5%水準で有意差あり。nsは有意差なし。



写真8 パラソルロマンの摘心日の違いによる開花株の様子

(4/8撮影、加温開始から68日)

表8 摘心日と開花形質の関係 (エンジェルリング)

摘心日	開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
8/11	4/21	80	7.7 a	10 aa	15
8/21	4/24	83	9.2 ab	11 ab	16
8/31	4/22	82	8.7 ab	11 b	16
9/11	4/28	88	10.0 b	11 ab	17
有意性 ¹	ns	ns	*	*	ns

注1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は5%水準で有意差あり。nsは有意差なし。

表9 摘心日と開花形質の関係 (プリンセスリング)

摘心日	開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
8/11	4/27 a	86 a	7.9	11	19
8/21	4/29 ab	88 ab	7.5	10	19
8/31	5/2 ab	91 ab	7.8	11	18
9/11	5/6 b	96 b	8.8	11	19
有意性 ¹	ns	ns	ns	ns	ns

注1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は5%水準で有意差あり。nsは有意差なし。

2 休眠打破に必要な低温期間

あじさいは花芽分化後、一定期間の低温に遭遇させ休眠打破することで開花する。パラソルロマン、エンジェルリング、プリンセスリングについて、低温処理期間が到花日数及び開花形質に及ぼす影響を確認したところ、自然低温処理下では休眠打破に必要な低温期間は5℃以下で720時間以上となった。ただし、低温期間が長いほど到花日数が短くなった (表10~12)。また、パラソルロマンでは規格品の範囲内ではあるが、低温期間が長いほど開花枝長が長く、株高が高くなる傾向が見られ、この傾向は自然低温処理よりも保冷库内での低温処理で、より明確に見られた (表10、写真9)。また、エンジェルリングでは600時間の場合、720時間に比べ開花が20日と大幅に遅れ、覆輪の出方にも影響が出たことから、低温期間が720時間未満にならないよう特に注意が必要である (写真10、11)。

表 10 休眠打破処理期間と開花形質の関係 (パラソルロマン)

低温期間	加温開始日	開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
600h	1/6	4/6 ab ²	91 a	8.2 b	21	27
720h	1/12	4/3 b	82 ab	10.5 ab	22	27
840h	1/19	4/6 ab	79 b	13.1 a	23	30
960h	1/28	4/16 a	80 b	12.7 a	23	30
有意性 ³		*	*	*	ns	ns

注 1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に 5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は 5%水準で有意差あり。ns は有意差なし。

表 11 休眠打破処理期間と開花形質の関係 (エンジェルリング)

低温期間	加温開始日	開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
600h	1/6	4/23 a ²	109 a	7.5	11	16
720h	1/12	4/11 b	90 b	6.8	12	16
840h	1/19	4/17 ab	90 b	9.6	12	18
960h	1/28	4/21 ab	85 b	9.1	11	17
有意性 ³		*	*	ns	ns	ns

注 1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に 5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は 5%水準で有意差あり。ns は有意差なし。

表 12 休眠打破処理期間と開花形質の関係 (プリンセスリング)

低温期間	加温開始日	開花日	到花日数 ¹	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
600h	1/6	4/9	95	3.8	11	16
720h	1/12	4/16	95	7	13	18
840h	1/19	4/22	95	6.8	11	17
960h	1/28	4/23	87	6.9	13	19
有意性 ³		ns	ns	ns	ns	ns

注 1. 到花日数は加温開始から開花までの日数。

2. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に 5%水準で有意差なし。

3. 有意性の*は 5%水準で有意差あり。ns は有意差なし。



写真9 パラソルロマンの低温期間の違いによる開花株の様子(4月28日撮影)

左から 600h(加温開始1月6日)、720h(加温開始1月12日)、840h(加温開始1月19日)、960h(加温開始1月28日)



写真10 エンジェルリング 低温期間 600h 開花株の様子

(4月28日撮影、加温開始から113日目)



写真11 エンジェルリング 低温期間 720h 開花株の様子

(4月28日撮影、加温開始から106日目)

3 草姿コントロール

パラソルロマンは花序のボリュームがあり、茎がやや柔らかいことから、節間が伸びると花序が割れやすい。また、育苗期の摘心時期は、最終的な株高には影響しないため、徒長抑制には、わい化剤の適切な使用が有効である。わい化処理が草姿に与える影響を調査した結果、草姿コントロールには、**摘心後 10～20 日後と、定植後 10 日にダミノジット水溶剤 200 倍を散布すると、無処理よりも 3cm 程度低くなり、出荷規格の株高 50 cm 以下にコントロールできる** (表 13)。エンジェルリング及びプリンセスリングについては、樹高が低い特性をもつことから、わい化の使用は不要である。

表 13 わい化剤処理による草姿への影響 (パラソルロマン)

処 理	開花枝長 (cm)	株高 (cm)
摘心後 10 日	29.4ab	44.1
摘心後 20 日	42.0 b	50.7
摘心後 10 日+定植後 10 日	20.8 a	41.9
摘心後 20 日+定植後 10 日	21.0 a	41.5
無処理	25.8ab	44.1
有意性 ²	**	ns

注 1. 多重比較は、Tukey-Kramer 法により同符号間に 5%水準で有意差なし。

2. 有意性の**は 1%水準で有意差あり。ns は有意差なし。

4 安定した花色発色のための施肥量

あじさいの赤色の発色には、用土中のリン酸が影響している。3品種の赤色を安定して発色させるために必要なリン酸の施肥量を検討した結果、**5号鉢で基肥のリン酸肥料施肥量 36g/鉢 (成分量 9.9g/鉢) 以上が適する**ことが明らかとなった。また、リン酸成分の肥料の施肥量が多い程、発色が強くなり、淡い紫ピンクから濃いピンクへ花色が変化した (写真 12)。



写真 12 リン酸肥料による花色の違い

(各品種左からリン酸無施用、リン酸成分量 9.9g/鉢、リン酸成分量 13.2g/鉢)

注 1. 定植用土には、赤玉土：ピートモス：腐葉土：パーライトを 40：40：13：7 の割合で配合した用土を使用し、基肥としてリン酸肥料 (苦土重焼燐、ようりん) を配合した。

2. 窒素、カリ肥料は、生育途中で液肥の硝安、硝酸カリを 1：1 で配合し、週 2 回、窒素成分濃度が 100ppm となるように、鉢あたり 300ml 施用した。

IV. 栽培技術指針

栽培暦（母の日出荷用）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ピンチ2回				挿し		ポット上げ		摘心	摘心												入室 加温	寄せ 植え		
ピンチ1回				挿し		ポット上げ		摘心																

1 親株管理

発根率が良く、育苗期の出芽の揃いが良い充実した挿し穂を得るためには、前年の親株管理を計画的に行うことが重要である。親株は早期出蕾などで出荷できなかった株を利用することもできるが、採穂用親株を準備しておく方が確実である。特にエンジュエルリング、プリンセスリングは、新梢の節数が少なく挿し穂を確保しにくい品種のため、十分な親株を確保する必要がある。

親株管理は、露地か雨よけとし、肥料不足では良い穂がとれないので、6～9月までは置き肥等で肥培管理をする。早期出蕾を避けるため、摘心は9月過ぎに行う。

2月下旬から最低夜温 10℃前後に加温したハウスに入室し、肥培管理をする。充実した挿し穂をとるために、鉢の間隔を広くとり、十分に光が当たるようにする。

また、親株からの採穂だけでなく、出荷用の開花株の余剰枝を利用することもできる。保温開始後に新梢が伸び、余剰な開始枝を整理するときに、株元からピンチした枝を挿し穂として利用する。余剰枝からの採穂は4月中旬に行う。

2 挿し木作業

①挿し木時期

最終摘心時期が8月下旬となるため、挿し木作業は5月中旬～下旬が適期である。

②挿し穂の調整

養成した親株から枝をとり、1節ずつ管挿しにする。大きい葉は3分の1程度に切り落とし、水揚げする。親株はハダニ類、うどんこ病、炭疽病等の発生に注意を払い、適時防除を行い、挿し穂への感染を防ぐようにする。

③挿し木用土

鹿沼土（細粒）、又は、鹿沼土（細粒）：パーミキュライト＝3：1などを用いる。

④挿し木と管理

72～128 穴のセルトレイへ挿す。発根を促すため、密閉挿しかミスト繁殖とする。密閉差しでは発根後、密閉資材を取り除く。また、発根後はN50ppm 程度の液肥を1～2 回施肥する。また、発根剤を使用してもよい。



写真 13 調整した挿し穂

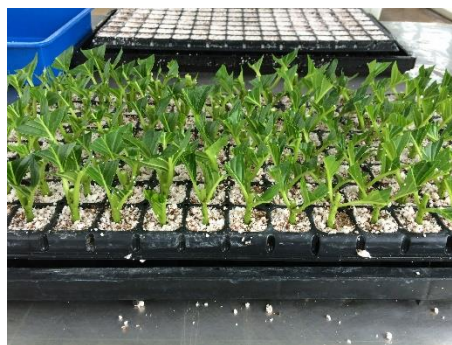


写真 14 挿し木の様子

3 育苗管理

①ポット上げの時期

挿し木後、3 週間から1 か月程度で発根が確認できたらポット上げを行う。また、発根初期の状態でもポット上げは可能で、作業性もよい。ポットは2.5～3.5 号を使用する。定植時に寄せ植えする場合は1 本植えとし、寄せ植えしない場合は2 本植えにする。

②ポット上げ用土

赤系を栽培するための用土として、以下のとおりに配合したものを共通用土として使用する。

原料名	配合割合
赤玉土	40%
調整ピート	27%
無調整ピート	13%
腐葉土	13%
パーライト	7%

基肥種類	量(g/L)
苦土重焼りん (35%)	6
ようりん	4
ケイカル	1
ロング4 1 3 (70 日タイプ)	2
ロング4 1 3 (100 日タイプ)	2
キレート鉄	0.2

③かん水管理

ポットに上げて1か月ほどは手かん水で、過湿にならないよう管理する。8月下旬に露地ほ場に搬出後する場合は、乾かさないように十分かん水する。

④養分管理

共通用土は十分肥料を含んでいるため、過剰施肥とならないように注意する。過度の肥料は側枝の節間伸長を助長し、徒長苗をつくる要因にもなる。9月中旬までは生育に必要な最小限の施肥に留め、葉色は若干淡いくらいでよい。9月15日以降ロング413（70日タイプ）を2.5号ポット当たり2.5g施用する。

⑤摘心作業

摘心を1回行う場合、休眠前に不時着蕾することがないように8月25日前後を目安に行う。摘心は2節残しで行う。また、摘心を2回行う場合、ポット上げ後に発生した側枝が3節程度に伸長した頃に1回目の摘心を行い、2回目の最終摘心は8月25日前後を目安に行う。



写真 15 摘心後の様子

4 休眠期の管理

10～11月頃花芽分化した後、自然休眠に入る。高温管理だと休眠に入らないので、12月までは自然低温にあて、日中は十分換気する。5℃以下720時間以上（一般的に1月上～中旬）で休眠が打破される。保冷库により休眠打破する場合は、5℃以下で30日間が目安である。



写真 16 休眠時の様子

5 定植から開花までの管理

①定植時期および定植作業

母の日出荷用に4月下旬から5月上旬に開花させるには、1月下旬から2月上旬が定植時期となる。用土はポット上げと同様とする。1本植えは2ポット寄せ植えし、2本植えのポットはそのまま5号鉢に定植する。出荷時の開花輪数が確保できるよう、1鉢当たりの側枝数が7本以上であることを確認する。



写真 17 定植直後の様子

②温度管理

定植後の温度管理は、定植から5日間程度は夜温10℃で順化し、それ以降はがく片着色前までは夜温16～18℃、換気温度を23℃とし、がく片着色後からは夜温12～13℃、換気温度を18～19℃に下げ管理する。がく片着色期に高温管理をすると花色が悪くなることもあるので注意する。

③養水管理

鉢上げ後からがく片が展開する頃は、肥料要求量が多く、がく片展開までに肥料が不足すると葉色の薄い貧弱な株となるため、注意する。ロング413〈70日タイプ〉及び〈100日タイプ〉を各2g程度置き肥するか、液肥による管理を行う。また、発蕾後から赤みの強いピンク色を発現させるためには、リン酸濃度が300ppm程度の液肥を週2回程度追肥する。

④支柱立て

新葉が展開し、蕾が確認できたら支柱立てを行う。支柱はクイックタイで留めるが、早すぎると茎の曲がりの原因となることがあるので注意する。

6 出荷

エンジェルリング、プリンセスリングは十分に花卉が開いているものを出荷する。パラソルロマンは着色が遅いため、十分に発色しているものを出荷する。消費者から支持される息の長い品種とするために、花色が不鮮明なものや、開花のステージのバラツキが大きいものは出荷しない。

○品質の目安

A品：花色が鮮明で、覆輪がはっきりとしている。

茎が伸びすぎず、葉と花のバランスがよい。花序数は7輪以上。

B品：花色はA品に準ずるが、覆輪がやや不鮮明のもの。

茎が伸びすぎず、草姿バランスがよい。花序数は6輪以上。

C品：花色がやや不鮮明なもの。

茎が伸びて、草姿のバランスが悪いもの。花序数は6輪以上。

7 病害虫防除

害虫はハダニ類、アザミウマ類、病気はうどんこ病、炭そ病に注意する。株の間隔を適当にとり、親株及び育苗時の防除を徹底する。蕾が見えてからの薬剤散布は薬害の恐れがあるため、初期防除に心がける。